

海外派遣研究助成事業による研究の成果

研究者氏名	甲 貴文 甲
所属機関	日本赤十字社和歌山医療センター 呼吸器外科
<ul style="list-style-type: none"> ・研究に従事した外国の研究機関名 ・参加した国際学会・会議名 	31st European Conference on General Thoracic Surgery (第31回欧州胸部外科学会)
渡航期間	自 2023年6月4日 至 2023年6月6日
<ul style="list-style-type: none"> ・研究内容 ・国際学会・会議内容 	EGFR 遺伝子変異が肺癌術後補助化学療法後の再発予後に与える影響
<p>研究成果 (要約: 800字)</p> <p>がん研究振興財団の海外派遣研究助成事業による渡航助成をいただき、イタリア、ミラノで開催された 31st European Society of Thoracic Surgery International Conference の Poster Session にて以下の研究について発表した。</p> <p>【背景】EGFR 遺伝子変異陽性の肺癌患者へ osimertinib を用いた術後補助化学療法で無病生存期間が有意に延長することが示されたが、EGFR 遺伝子変異と従来の術後補助化学療法の有効性の関係は不明であり、osimertinib の導入時には参考にすべきである。そこで EGFR 遺伝子変異に注目し、従来の術後補助化学療法の効果を明らかにすべく解析を行った。【方法】2010年から2021年に手術を施行した非小細胞非扁平上皮癌の症例で、cisplatin ベースの術後補助化学療法を行ったものを対象とした。EGFR 遺伝子変異の有無 (EGFRwt vs. EGFRmt) で群分けし、単変量・多変量解析を行った。【結果】EGFR 遺伝子変異検索を施行した 111 例 (EGFRwt : 60 例、EGFRmt : 51 例) を抽出した。5 年無再発生存期間は EGFRwt 群で有意に良好であった。多変量解析では EGFR が有意な再発予後因子の一つであった。【考察】EGFRmt 症例には、EGFRwt 症例と比較して従来の術後補助化学療法単独では術後再発予防効果が不十分であり術後の osimertinib を再発予防に使用することの妥当性を示唆するものと思われる。</p> <p>コロナ禍での国際学会の口頭発表にオンラインで参加した経験があるが、国際学会に通ったことで浮足立ち、会場の臨場感が欠けていたことなどあり、自分を客観視する視点に乏しかった。今回はポスターであったが、一般口演、ポスターを見学すると、自分の未熟なところを再認識できた。逆によかった点も評価することができ、世界の中での自分のレベルを推し量ることができたように思う。また肺癌の TNM 分類が変更の節目を迎え、その先行発表を聞いたのは収穫だった。今回このような機会を得るための多大なる貴重な援助をいただき、がん研究振興財団のみなさまには心より感謝いたします。この経験を今後への糧とし、患者さんへ還元できる研究を続けていきます。</p>	